

| | | |
|-----------|--|---|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | □知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ） |
| | • 対象児童生徒の課題 | 課題：情緒の安定、集団への参加 不調時には教室を飛び出して声を上げる。エスカレートすると自傷行為がある。 |
| | • 自立活動の目標 | 集団での活動に参加できる回数や頻度を増やす。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | 健康の保持 <u>心理的な安定</u> 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション |
| | • 支援の手立て | • 気持ちや体調面から移動が難しかったり時間がかかったりする場合、気持ちが授業に向かうような言葉かけをする。本人が好きで気持ちが落ち着くようなマッサージをしたり、身体をさすったりするなど、本人の気持ちを尊重しながら授業に参加できるよう支援を行う。 |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | • 本人の様子や調子をみて、なるべく授業に入ることができるように促した。時には声を出して不調になることもあった。 |
| | • 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等 | • 不調時には別室で休憩する。その際にマットや毛布など本人が落ち着くグッズをそろえる。 |
| グループ討議 | <u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等 | • すぐに手が出る生徒に対して、場所や環境を変えて指導することで指示が入る。不適切な行動があれば何度も繰り返し注意することで、少しずつ指示が入るようになった。安心グッズを持たせると落ち着く。 |

| | | |
|----------|--|---|
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて授業に参加できる回数や頻度、時間が増えてきた。調子の悪い日でも少しの休憩で元の場所に戻ることもできてきている。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・本人の様子を見て、休憩が必要かどうかの判断がつくようになった。 |
| まとめ | <u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・本人が安定して過ごせたり、落ち着いて過ごせたりできる環境を整える。 |

| | | |
|----------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ タイミングを見て、良いこと悪いことを伝えることを課題とする。また「伝えたいことカード」の使用について、何かを頑張ったタイミングで教員が絵カードなどを提示し「音楽が聴きたい」などカードを教員に渡して伝えるということを課題とする。 ・ 今何をするかを事前に伝え、お昼休みにどのように過ごしたいか話すことで落ち着いて行動することができた。 |
| グループ討議 | <u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考になった支援方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 不調の際に教員と気持ちを整理する時間を設ける。 ・ こだわっている時には視点を変えるようなアドバイスをする。 |
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しをもって行動できる場面が増え、安心して過ごせる時間が長くなった。 ・ 自身で時間割を確認して行動することが増えた。 ・ 落ち着いた後に「良いこと」がある経験を積むことで、切り替えを頑張ろうとする場面が見られた。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ こだわっている時には視点を変えるようなアドバイスで切り替えができる場面が数回あった。 ・ 切り替えはできても、こだわりがあるため最終的にこだわっている場面まで戻ることもある。今後はその切り替えまでできるよう工夫したいと考えている。 |
| まとめ | <u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 不穏になった際の気持ちの切り替え方法を獲得することが課題である。 ・ 困っている状況でも言葉で伝えることが少なく、自ら援助を求められるようにすることが課題である。 |

| | | |
|----------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手な生徒のいる空間から離す方法だといつまでたっても成長がないし、我慢させすぎるのも生徒の登校意欲を減退させるから難しい。 ・ 必ず、食べられるものを懇談で聞き取り、その食品は給食でも食べるように勧めることで生徒の負担感が減ったように思える。 |
| グループ討議 | <u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考になった支援方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 不安定になって、気持ちをぶつける教員にこだわることがあった。その際にはすぐに別の教員に代わってなだめると比較的短時間で落ち着くことができる。 ・ 給食に対するこだわりよりはお弁当や外食などの方が大分軽く、1日の栄養摂取に関して問題もなさそうなので、急がずにゆっくりと給食での偏食をなくす方向で支援を進める方が心理的安定につながると判断した。 |
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 少しくらい苦手な生徒が声を出していても、気にせずその場で学習活動を行うことができるようになってきた。苦手生徒へ視線の移動も減ってきている。 ・ 2袋目のふりかけの前に教員に言われなくても、「〇〇食べます。」と自分から苦手なのをある程度食べることができるようになった。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ その場での課題に気持ち向けるような言葉がけをして本児が苦手生徒のことを気にしないよう支援した。 ・ なるべく強要するような言葉を使用せず。やさしく提案するように食品を勧め、本児が難色を示したら、すぐに食材を変更し、1, 2種類程度までを少量、口にすることで合格ラインとする方法で行うことで給食のパターンが定着してきた。 |
| まとめ | <u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手な生徒と少しずつ距離を縮めていき週に何回か少人数の同じグループと一緒にいることができるようになる。 ・ 2袋目のふりかけを使用する前に、こちらが皿に載せた食材を完食するという行動パターンを身につけることで給食における偏食を軽減していくようにする。 |

| | | |
|----------|---|---|
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 | <p>SPS 関連で教室に配備されている避難・訓練用のヘルメットの着用について、地震避難訓練で着用したのをきっかけにして、こだわりがでてしまい必要のないときにヘルメットを被ろうとして授業場所などへの移動に支障が出る事態となってしまった。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校での過ごし方が影響するのか不明であるが、ほぼ毎日の放課後を過ごしているデイサービスの学校迎いの車に円滑に引き継げるかが課題である。 ・ヘルメットへのこだわりは始業前の数分間着用することで授業中や給食時間に被らないよう約束してそれを守ることができている。 |
| まとめ | <p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・行動の切り替えを適切に行い、次の授業場所への移動を円滑に行う。 ・教室に定着できる時間を増やし、トイレの意思表示ができるように努力して教室を出ていこうとする行動との区別ができるようにする。 ・教室に設置されているヘルメットへのこだわりを少なくする。 |

| | | |
|-----------|--|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| | • 対象児童生徒の課題 | <ul style="list-style-type: none"> • 気持ちが不安定になった時に言葉で伝える • 様々な経験を積む |
| | • 自立活動の目標 | <ul style="list-style-type: none"> • 帰りの会で一日を振り返り、活動内容や気持ちを伝えられるようになる。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | 健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション |
| | • 支援の手立て | <ul style="list-style-type: none"> • 日々自分の言葉で発表する経験を積みながら、授業等に触れ手掛かりを示す。具体的な内容やどんな気持ちだったかなども尋ね、言葉にできるようにする。 |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | <ul style="list-style-type: none"> • 「しんどかった」以外に楽しかった授業名もでてくるようになった。具体的な内容や気持ちのバリエーションの幅が広がるように今後も経験を積み重ねる。 |
| | • 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> • 言葉を交わす場面が増え、色々と話を伺えるようになった。日ごろからの会話を増やし、様々な思いを話せるような関係性を築くことが課題である。 • 前向きな時以外に少し表情が硬い時に話しかけることで、少しずつ気持ちを尋ねることができるようになってきた。 |
| グループ討議 | <u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等 | <ul style="list-style-type: none"> • しんどい時には「しんどい」と言ってよいことを伝える。 |

| | | |
|----------|--|---|
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・交友関係が少しずつ広がり、仲の良い友だち以外にクラスの友だちにも気軽に話す場面が見られるようになった。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・上手にできたことを賞賛することで、嬉しそうな表情が見られ少し自信を覗かせて話を聞かせてくれることが増えてきた。 ・まだ本人から学校生活でのしんどいことについての話は聞き取れていない。 |
| まとめ | <p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・しんどいことも自分から伝えられるようになる。 |

| | | |
|-----------|---|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | <p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（）</p> |
| | • 対象児童生徒の課題 | <p>課題： 情緒の安定</p> <p>・穏やかに過ごしていても、ふとした瞬間に機嫌が悪くなり、イライラしてしまうことがある。近くにいる人をたく、爪を立てるなどすることがある。卒業後の進路に向けて、緩和していけることが望ましい。</p> |
| | • 自立活動の目標 | <p>・イライラした時に、言葉かけや安心グッズを触ることにより、気持ちを切り替えられるようになる。</p> |
| | • 上記目標に対応する区分 | <p>健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成</p> <p>環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p> |
| | • 支援の手立て | <p>・表情が変化した時には、落ち着くように言葉かけを行う。</p> <p>・イライラしている時には、周りの人から距離をとり、気持ちがそちらに向かないように、配慮する。</p> <p>・人にあたってしまった時には、そのことについてゆっくりと話をし、やってはいけないことを諭す。</p> |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | <p>・気温が高くなってきたり、夏休み前になったりすると、まだ学校があることに納得できず、不機嫌な状態で登校することが、少なからずあった。気候が穏やかになってきたときにどのような様子になるか、見守る必要がある。</p> |
| | <p>• 教員自身の成果や課題</p> <p>• 効果的だった支援の実践方法等</p> | <p>・教員の目が離れた一瞬について、行動に出るのでまだまだ対応には気を付けていかなければならない。離れていても、言葉かけで叩こうとする手が止まることもあるので、言葉によるコミュニケーションも引き続き行っていきたい。</p> |

| | | |
|----------|--|--|
| グループ討議 | <p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 参考になった支援方法等 | <ul style="list-style-type: none"> 心理的な安定をはかるためには、安心グッズの活用が有効であることを、改めて確認した。お気に入りのキャラクターつきの物、学校の青マット、持参しているタオルなど。それらの安心グッズをきっかけとして、気持ちの安定につなげたい。 |
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> 比較的落ち着いて過ごしていることが多くなってきた。気候が良くなってきたからか、環境に慣れてきたからかはわからない。しかしながら、機嫌がよくない状態で、多めの薬を服用してくることもある。そのような時には、まだまだ注意が必要である。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 教員自身の成果や課題 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> 機嫌がよくななくても、クラスメイトを叩きに行くことは減ってきているように思う。教員に対しては、攻撃的になることがまだあるが、そのような時にはゆっくりと諭すように話をすると、本人なりに頷きながら聞くことができるようになってきている。 |
| まとめ | <p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> 穏やかに過ごせることが増えているが、時々教員に対して手が出てしまうことがある。何が理由かを、家庭での様子や出来事を参考にしながら考え、本人がしんどくならないように、環境を整えていくことが必要と思われる。本人も、イライラした時には、安心グッズを活用しながら落ち着けるようにすることが課題である。 |

| | | |
|-----------|--|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | <p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ダウン症候群 ）</p> |
| | • 対象児童生徒の課題 | <ul style="list-style-type: none"> • 騒がしい場所、暗い場所が苦手 • 見通しを持つこと、気持ちの切り替えが苦手 • 意志が固く、自分の思いが強くなる時がある |
| | • 自立活動の目標 | <ul style="list-style-type: none"> • 安心グッズ等で気持ちを落ち着かせ、苦手な場所に慣れる。 • 絵カード等で見通しを持ち、気持ちの切り替えができるようになる。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | <p>健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成</p> <p>環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p> |
| | • 支援の手立て | <ul style="list-style-type: none"> • 安心グッズ等で不安感を軽減する。 • 絵カード等を使い、一日の予定に表し、見通しを持たせる。 • 気持ちの切り替えができない場合は、時間を決め、自分の気持ちが収まる行動を行わせる、もしくは、事後の予定に入れて行動するように促す。 |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | <ul style="list-style-type: none"> • 安心グッズやお気に入りのツールを使うこと、予定の確認や余暇活動を説明することで落ち着いて行動することができた。突発的な状況では気持ちの準備ができていないため、行動に移すことができないこともあったが、事後に振り返りを行うことで段々と意欲や挑戦する姿勢が見られたので続けていく必要がある。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> • 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> • 信頼関係を持つことで「安心」につなげることができた。本人にとっての不安を察知し、聞き取る時間を設けることが課題である。 • 問題や課題がわかっているときには事前に安心グッズを持っておくよう促すことでスムーズに行動することができた。 |

| | | |
|----------|---|--|
| グループ討議 | <p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった支援方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持しながら、効果的な支援方法を試し、信頼関係を築く。 ・他者との関係や信頼関係を築きながら、安心につなげるようにする。 |
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・安心グッズを渡すと落ち着いて行動することはできているが、置き忘れがあるため所持していないときは落ち着いて行動できていないことが多かった。所持していないときは自ら身振り手振りで所持していないことを知らせることがあった。 ・継続的な指導が必要。習慣化することですべきことや安定方法が明確になり、スムーズに活動することができる。見える位置に置くことで気付き、自発的に行動する傾向がみられた。 |
| まとめ | <p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・安心できるグッズや他者とのかかわりを増やししながら自発的な行動や自発的な発信が多くなるようにする。 ・絵カードを少しずつ簡略、削減しながら無くても見通しを持つことができ対応することができるようにする。 |

| | | |
|----------|--|---|
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・不安定な日が増えた。寒さや、疲れが影響しているかもしれない |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況を正しく見極める ・生徒の毎日の生活リズムを崩さずに対応した |
| まとめ | <u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・気分の波を小さくする ・情緒の安定 |

| | | |
|-----------|----------------------------------|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | □知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、■ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（強迫性障害） |
| | • 対象児童生徒の課題 | 課題：人の行動や特定の物、人に対して過剰な苦手意識があり、気持ちが不安定になると大声で暴言を吐いたり暴れたりすることがある。 |
| | • 自立活動の目標 | <ul style="list-style-type: none"> 不安定になった際も、落ち着いて言葉で伝える。 適切な行動をとれるようになる。 苦手なこと、ものに対する理解を広げる。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | 健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション |
| | • 支援の手立て | <ul style="list-style-type: none"> 信頼関係を築き、心理的安定を図る。 苦手なことや物に対して理解を深められるよう継続的に話をする。 |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | 本人の気持ちを教員が受け止め、心理的安定を図ることで、不安定なときも言葉で伝え、適切な行動がとることができた。一方で、自分が被害を受けたと思い込んでしまうと、受容が難しく、相手を許すことができないところは今後の課題である。 |
| | • 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等 | 話を聞く時間を設けたり、本人が落ち着く環境を設定したりすることで、本人も落ち着いて行動ができた。 |
| グループ討議 | 全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等 | 多方面（さまざまな立場、関係性）から話を聞く機会を設定し、心理的安定を図る。 苦手意識の原因や、解決方法を一緒に模索し、苦手なこと、物に対して許容できるようにする。 |

| | | |
|----------|--|--|
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 | <p>過去に身体に接触したことがあるクラスメイトに強い拒否感を持ち、接近するだけで自分から追い払うようなしぐさ（威嚇）を向けることがあった。対人関係での感情的要素が強い場面では、担任の指摘を素直に受け入れにくいことがある。振り返りの時間を多く設け、時系列に整理することで落ち着くことができた。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <p>効果的な支援の実践方法として生成AI（Gemini）を活用して振り返りを行った。AI（人間以外）からの文章提示は、心理的抵抗が少なく、客観的に受け止めやすい様子であった。また、「読む」という行為は、時間をかけて処理できるため、衝動的反応を抑えやすい効果があった。今後も、本人が問題行動を起こす前に、不安を受け止め、最善の方法を選択し適切な行動を促す。</p> |
| まとめ | <p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・本人が不安な気持ちを言葉で伝えられるようになる。 ・苦手とする他者に対して、適切な回避方法を知り、適度な距離感をつくったり、教員に助けを求めたりできるようになることが課題である。 ・授業教室で過ごすことが難しい際、無断で一階に下りず、同じ階の場所で過ごすか、教員に伝えてから移動することができるようになる。 |

| | | |
|-----------|----------------------------------|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | <input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input checked="" type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| | • 対象児童生徒の課題 | 課題： ・ 疲れた時やしんどくなった際に自尊心が低くなり、ネガティブな発言が多く、立ち上がれなくなることがある。 |
| | • 自立活動の目標 | ・ 他のメンバーと協力することができる。 ・ 心の安定を図りながら、継続して登校する。 ・ 生徒会役員の活動を通して学年の代表としての姿勢を身に付ける。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | 健康の保持 <u>心理的な安定</u> 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション |
| | • 支援の手立て | ・ 他のメンバーと協力して取り組むことができる活動の場面を設定する。 ・ 朝や下校前の時間を使いながら担任と会話をし、不調の際や課題にぶつかった時、どのようにして解決していくべきかを一緒に考える。 ・ 生徒会役員として必要な資質などを考える時間を設定する。 |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | 苦手な場面や自分にとって不都合なことが起きた際に、ネガティブな発言が出たり落ち込んでしまったりしてしまうことはあった。話を聞いてもらったり、頑張ったことをほめてもらったり、どうすればよかったかを教員と一緒に考えてできることを見つける作業を繰り返すことで少しずつ切り替えるスピードも早くなってきた。課題としては、困ったときにどのように発信するかを探る必要がある。 |
| | ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 | ほんの些細なことでもできたことは評価することで、マイナスの行為や表出に対する指摘をすることができ、また生徒自身も教員からの注意を受け入れることができた。 |

| | | |
|----------|---|--|
| グループ討議 | <u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等 | どの事例の説明を聞いても、またその後の意見交換の中でも、生徒の心理面の安定や成長を図るためにも、些細なことでもほめて、そしてその後どうすれば尚良いのかを振り返り、それを繰り返していくことが大事であるというものにつながった。 |
| 2学期の振り返り | ・児童生徒の様子、変化 | 友だちとの些細なトラブルや教員からの指導や言葉かけに引っ掛かり、ふさぎ込んでしまう場面が見られた。その際に、少し机で伏せてしまい、時には教員に「少し教室を出たいです」と伝え、自らを落ち着かせることがあった。長く引きずるのではなく、ある程度の時間で整理して次の活動に参加するまで自分の気持ちをコントロールすることができるようになった。 |
| | ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | 本人の性格や特性から、決められた枠の中ではできるだけ自由に行動し、判断できるようにした。好きなことへの取り組みに関しては見習いたいほど積極的だが、苦手なものには背を向けてしまうところが、なかなか成長を促せなかった。 |
| まとめ | <u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | 問題が生じた際や、自分にとっての嫌なことに対してどのように向き合って乗り越えていくのかが、今後も引き続き課題である。自分はどうしたいのか、どうすれば乗り越えていけるのか、自分の気持ちや考えを、教員や友人に対して落ち着いて言葉で伝えて解決していくことが必要な力である。 |

| | | |
|-----------|---|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | <input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（発達障がい） |
| | • 対象児童生徒の課題 | <ul style="list-style-type: none"> • 移動に時間がかかり、集団の中で説明を聞いたり活動したりできる時間が少ない。 • 予定変更や環境の変化に適応することが難しい。 |
| | • 自立活動の目標 | <ul style="list-style-type: none"> • 授業が始まる前に、授業内容と場所の確認を行う。授業場所に来ることができたら、内容と時間の確認を行い、見通しを持って活動に取り組む環境を作る。 • 事前に予定を伝え、当日も教員と一緒に時間割を確認し、活動場所まで移動があることを理解する。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | 健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション |
| • 支援の手立て | <ul style="list-style-type: none"> • 教室では座席を集団から離して用意する。 • 落ち着いたら教室に入るよう言葉かけをおこなう。 • 時間割を確認しその日の流れを伝え、本人の様子を見ながら次の行動を促す。 | |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | 様子：教室の移動に関してはスムーズに行く場合とそうでない場合があるが最終的には授業に入る。対応する教員が変わると移動ができる場面が多々ある。 課題：いつもと違う予定や場所になると移動が特に難しくなる。（学年集会、避難訓練等） |
| | • 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等 | 成果：生徒の状況に応じた言葉かけの内容など考える機会が増えた。 課題：移動するまでの時間が短くなるよう言葉かけの仕方を考えていく。 実践：水分補給を促したりトイレへ行くよう促したりすると気持ちの切り替えができ、移動ができる場面が増えた。 |

| | | |
|----------|--|--|
| グループ討議 | <p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考になった支援方法等 | <ul style="list-style-type: none"> 普段の様子を観察し不調の時と調子が良い時の違いを把握しそれに応じた対応を心がけるようにする。 対応する人や環境、言葉かけの内容やタイミングなどを変えて、本人が落ち着けるよう対応する。 |
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子、変化 教員自身の成果や課題 効果的だった支援の実践方法等 | <p>環境の変化に慣れたのか教室の移動が非常にスムーズになり大幅に遅刻をすることが少なくなった。</p> <p>成果：生徒の状況に応じた言葉かけの内容やタイミングなど考える機会が増えた。</p> <p>課題：移動するまでの時間が短くなるよう言葉かけの仕方やタイミングを考えていく。</p> <p>実践：水分補給を促したりトイレへ行くよう促したりすると気持ちの切り替えができ、移動ができる場面が増えた。</p> |
| まとめ | <p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> 教室から出る際に行き先を教員に伝えることができるようになる。 学年が変わっても新しい環境になるべく早く慣れ、授業に参加できるようにする。 |

| | | |
|--------------------------|-----------------|---|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | <p>□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ）</p> |
| | • 対象児童生徒の課題 | <p>課題：苦手な音や暑さ、睡眠不足による他傷行為がある。これまで、「清掃中に持っていたモップで他生徒を他傷」「バス下車後、座っていた小学部児童の顔を他傷」などの行動があった。パニックになった際の気持ちの抑え方を身につけることが課題である。</p> <p>昼夜逆転してしまっているため、睡眠不足の際は、授業に行けず寝てしまっているのが現状である。</p> |
| | • 自立活動の目標 | <ul style="list-style-type: none"> • ジェスチャーや擬音を交えて欲しいものを伝えることができる。 • 自分の体調に合わせて、行動を選択することができる。 • 一定時間作業に取り組み、手指の巧緻性を高める。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | <p>健康の保持 <u>心理的な安定</u> 人間関係の形成</p> <p>環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p> |
| | • 支援の手立て | <ul style="list-style-type: none"> • 欲しいものを要求している際にジェスチャーや言葉で伝える時の手本を示す。 • 行動を二択で示し、選びやすくする。 • 作業に取り組む数や時間を提示して見通しを持ち、取り組める環境を設定する。 • 不穏な際は、服薬し様子を見る。 • 教室の暑さを感じた際は、クーラーをつけるなど温度を調節する。 |
| 返り 1 学期 の 振り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | <p>1 学期最初は苦手な声や嫌な出来事を思い出し、パニックを起こすことがあった。本人の様子を確認し、正しいタイミングで服薬をすることによりパニックが減少した。課題は寝てしまうことである。</p> |

| | | |
|----------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <p>突然物を投げってしまう動作や、他傷を防ぐために教室内にパーテーションで安心スペースを作成した。彼の動線が限られてクラスメイトへの他傷はほぼなくなった。</p> <p>課題として、パニックの前兆を複数見つけることが挙げられる。</p> |
| グループ討議 | <p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった支援方法等 | <p>1学期のパニック、現在の睡眠時間について相談支援員と共有を行った。学校と福祉との連携も行い、さらに心理的安定を目指せると良い。砂川支援センターの研修でボックスや絵カードなどの良い実践を見る機会があり、今後の支援に生かしていきたい。</p> |
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 | <p>服薬の効果により、パニックは2学期に1回のみであった。</p> <p>保護者と相談して、睡眠薬の正しいタイミングでの服薬を促すと協力していただき授業に入る回数が少しずつ増えてきている。笑顔も増え、自分なりの方法でパニックになるかもしれないことを表出できつつある。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <p>服薬カードの活用、ボックスのような選択肢カードを使用し、自分から選択できる方法を確立した。</p> <p>自己選択する場面が増えたことや、教員とのコミュニケーションが増えてきている。さらに、表出を増やすようにすることが課題である。</p> |
| まとめ | <p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <p>次年度目標</p> <p>他者とコミュニケーションを取る引き出しを増やす。</p> <p>課題等 服薬後の眠気をどのように支援するか？</p> |

| | | |
|-----------|--|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | <p>□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ 広汎性発達障害 ）</p> |
| | • 対象児童生徒の課題 | <p>課題： 自分の気持ちを表出しながら、友だちとの関係を良好に保つ。</p> <p>友だちの言動に敏感なところがあり、気になると必要以上に関わろうとしてしまうところがある。気になるときはまず自分の気持ちや状況を教員に伝え、感情を落ち着かせる。その後相手の気持ちも考え、どのように対応したらいいかを相談しながら、友だちとのトラブルをなくしていくことが課題である。</p> |
| | • 自立活動の目標 | 友だちと接する中で気になることがあれば教員に相談し、気持ちを落ち着かせてから解決策を一緒に考える。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | <p>健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成</p> <p>環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p> |
| • 支援の手立て | <ul style="list-style-type: none"> • 生徒たちの言動の中で本人が気になりそうな状況になった時は、教員が間に入り、本人に言葉かけをしながら落ち着くように促す。 • 日頃の友だち関係の中で、本人の言葉遣いや態度が良い時は褒め、修正が必要な時には本人と一緒にどのような言葉遣い、態度がいいのかを考える。 • トラブルが起こってしまった時は、何が良くなかったか、どうすればよかったかなど振り返りを行う。 | |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | <ul style="list-style-type: none"> • 1学期は友だちとのトラブルはほとんどなく、落ち着いて学校生活を過ごせた。本人もこれ以上言うとトラブルになるということはある程度理解できており、気になることは直接相手に言うのではなく教員に伝えることができた。 • 教員とのやり取りの中で、自分が気にしすぎたことやあまりしつこいと相手も嫌がるということがわかり、納得できることが多くなった。継続が課題である。 |

| | | |
|----------|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生の時にトラブルが多かった生徒と関わる時には、座席や距離など近くならないように配慮したり、教員の見守りを行ったりした。継続が課題である。 ・ 本人から相談（気になることを伝える）があった時は、共感を示しながら聞き、伝え方のアドバイスやこだわっている時には視点を変えるようなアドバイスをしたりした。 |
| グループ討議 | <p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考になった支援方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 会話だけでなく、書くこと（視覚的な支援）で問題点を整理する。 ・ 本人のいいところ、いい行動などを褒める、認める→自尊心を高める。 ・ 気持ちが落ち着ける場所を確保する。 |
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期は、同じ学年の生徒、他学年の生徒との関わりの中で気持ちがモヤモヤする場面が何度かあったが、感情を爆発させる前に自分から教員に気持ちを伝えることができた。 ・ 「波長が合わない」生徒とは、自分から関わることはやめようというアドバイスを受け入れ、努力していた。 ・ 不穏になることはあったが、自分の話を受け止めてくれる人がいれば、徐々に落ち着くことができた。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人から相談（気になることを伝える）があった時は、共感を示しながら聞き、伝え方のアドバイスやこだわっている時には視点を変えるようなアドバイスをしたりした。 |
| まとめ | <p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の来年度の目標、課題等 | <p>学校で身につけた「嫌なこと、気になることがあったらすぐに大人に相談する」「合わないと思った人には自分から関わることをしない」などを今後も実践して、自分も相手もストレスのない人間関係を作っていってほしい。</p> |

| | | |
|----------|--|---|
| グループ討議 | <p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった支援方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが高まる音楽や音を固定化し、授業前や移動すべき時間に流し、移動しないといけないと認知させる。 |
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の固定化と移動の定着は結びつかず、時と場合で移動につながる音楽は変わっていた。その時の本人の気分に近いメロディーでテンションを上げて動けることが多かった。 ・1日のスケジュールは家で入れてくる→時間割を視覚的に確認するは毎日行っている様子だった。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール以外にも、移動手段としての視覚支援を増やしてみる。 ・10秒タイマーをすると動くことができたので、タイミングを見て、利用してみる。 |
| まとめ | <p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に月間、週間で予定を把握し、活動内容や詳細を自分で聞く習慣をつけることを課題とする。 ・他人に気を持ち上げてもらうことが必要な際には、作業所と家庭で連携を取り、好きな音楽やセリフで行動につなげる方法も必要とされる。 |

| | | |
|-----------|--|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | <p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>■その他（発達障害）</p> |
| | • 対象児童生徒の課題 | <p>課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して作業する時間が短く、周りの注目をひく行動が多い。 ・多くの話し言葉をもつが、困っていること心配なことは伝えることが難しい。 |
| | • 自立活動の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・短時間の作業を集中して行い、成功経験を積む。 ・自分の気持ちを伝える場面を作り、指を指して表現する。 ・休み時間に取り組める、活動を複数から選ぶことができる。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | <p>健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成</p> <p>環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p> |
| • 支援の手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが落ち着かない時や心配なことがある時は、イラストなどのカードを補助として用意し、言葉で伝えられるように練習する。 ・授業の場面で使う言葉と、休憩時間に使う言葉があることを、意図的に差をつけて伝える。 | |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・休憩時間の選択肢等をカードで示し、選択することから始める。 ・自分から「〇〇したい」「〇〇はやめておく」という発言は出る。 ・積極的にできるのはHR教室でのみで、授業場面では難しかった。 |
| | • 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・設定した場面では出るが、イレギュラーな関わりの中では難しい。 ・イラストでの提示は有効だった。 |

| | | |
|----------|---|--|
| グループ討議 | <u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等 | ・文章を作ると、最後の語尾だけ発表できるのではないか。 ・報告ボードを作り、自分の気持ちを表現する。 ・見通しがあると、集中できる時間も増える。 |
| 2学期の振り返り | ・児童生徒の様子、変化 | ・改まった場で自分の気持ちを伝えることは、引き続き不安な様子だった。 ・設定した場面であれば、安定して気持ちを伝えることができた。 |
| | ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | ・行事が近づく時期や、家庭環境の影響があると、一定落ち着いた感情が、再度ゆれることがあった。 ・家庭と密に連絡をとり、過剰に反応することのないよう教員間で情報共有を行った。 ・イラストカードは引き続き有効と思われる。 |
| まとめ | <u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | ・新しい環境に慣れ、自分の気持ちを伝える場面で、表現する。(イラストを指さしする等) ・短時間の作業を集中して行い、成功経験を積む。 |

| | | |
|-----------|----------------------------------|--|
| 実態把握と目標設定 | • 学部 | 高 |
| | • 学年 | |
| | • 対象児童生徒の障害 | □知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ） |
| | • 対象児童生徒の課題 | 課題： 身体の不調時、いつもと違う環境下になるとパニックになる様子が見られる。 |
| | • 自立活動の目標 | • 身体や気持ちの不調時に気持ちを切り替える方法を知る。 • 体調の変化時に発信する。 |
| | • 上記目標に対応する区分 | 健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション |
| | • 支援の手立て | • いつもと違う予定の時には、事前に予定を伝え、本人の様子を確認しながら気持ちの安定を図る。 • 興奮時には、静かな場所に移動する。 • 気持ちを切り替える必要があるときは、好きなパズルの作業をすることで、気持ちを落ち着かせることができるようにする。 |
| 1学期の振り返り | • 児童生徒の様子、変化、課題 | • 体育大会など行事がある際に、タオルを破る行為があった。他は比較的落ち着いて過ごすことができた。 |
| | • 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等 | • 教室の一番前に、専用の長机でパズルができる場所を用意した。視界に壁とパズルしか入らないので、落ち着きがない時に、「パズルをする？」などの言葉かけをし、その場所で過ごすことを促すことで、落ち着いて過ごすことができていた。 |
| グループ討議 | 全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等 | • 普段の様子から、何がきっかけとなり不調になるのか観察するようにする。 • 対応する人や環境を変えるなど、本人が落ち着く環境を探してみる。 |

| | | |
|----------|--|---|
| 2学期の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝、掃除に行く前に嗚咽して声を出す行為が見られた。その行為が見られた際には、教室に戻るよう促したところ、やめることができた。また、ほこりが気になるようで、消火栓の上をなでる行為も見られるようになった。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・教室では、パズルやストローを袋に入れる作業などを行うことで落ち着くことができている。 |
| まとめ | <p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題として、異性の身体への興味が出てきており、身体接触を意図的にしようとする場面が見られるので、異性との距離を学ぶことを挙げていく。 |